

2008 夏期特別展「美ら海の貝 ～児嶋格コレクション～」

開催期間：2008年7月19日～8月31日
 2008年9月3日～10月27日
 2008年11月1日～11月28日

会場：自然遊学館多目的室
 関空交流館
 山手地区公民館

概要

沖縄本島、宮古島、石垣島、西表島などの琉球列島には特有の豊かな美しい自然が残されていて、美ら海、美ら島と呼ばれています。亜熱帯気候に属するこの地域には干潟やマングローブ林、サンゴ礁などの自然海岸があり、そこに数多くの貝類が生息しています。そんな琉球列島の貝にスポットを当て、計518種を展示しました。これらの貝は長年にわたり、貝類を調査・蒐集されている児嶋格さん（泉佐野市）のコレクションです。“美ら海の貝”を通して、様々な貝の造形美、色彩の豊かさ、貝の住む多様な環境などの興味深い世界に関心を抱いていただければとの想いで開催致しました。



【展示構成】

1. 貝の生息する環境

美ら海、美ら島には広大な河口干潟や前浜干潟、潟湖干潟とマングローブ林があります。またサンゴ礁の環境は礁原や潮だまり、サンゴ転石海岸、岩礁、藻場などさまざまな立体的環境をつくっていて、それぞれが関連してより多様な生態系をつくりだしています。移動力の弱い貝類は、地形、底質、水環境に順応し、食性を変え、すみ分けることで長年種を維持してきました。環境が多様なほど生息する種数も多くなります。



泡瀬干潟

〔展示している貝の生息していた場所〕

沖縄本島 屋我地：マングローブ林のある広大な潟湖干潟、塩性湿地
 大浦川：マングローブ林のある河口干潟、塩性湿地
 慶佐次川：マングローブ林のある河口干潟
 塩屋湾大保川：マングローブ林のある前浜干潟
 泡瀬干潟：泥池、砂地、礁原、サンゴ転石、藻場、岩礁
 真栄田岬：海岸にそびえる隆起サンゴ崖

宮古島 下崎：隆起サンゴ海岸、打上飛沫帯
 島尻：サンゴ塊の打ち上げ帯
 狩俣：サンゴ岩礁、転石海岸
 久松：小川の河口ゴミ捨て場と打ち上げ帯
 石垣島 名倉干潟：広大な前浜、河口干潟、マングローブ林
 吹通干潟：広大な前浜、アマモ帯、河口干潟、マングローブ林
 白保：サンゴ礁、礁原、岩礁、サンゴ転石、アマモ帯
 川平：砂地、サンゴ転石、岩礁
 玉取崎：砂地、転石、岩礁、サンゴ礁
 真栄里：サンゴ礁原
 桴海川：小河川、転石、コンクリート三面張り、山地流



石垣島 吹通川河口

西表島 船浦干潟：広大な前浜、河口干潟、マングローブ林

※ 希少種の保護のため、一部の採集地の公表は控えさせていただきました。

2. アマオブネガイ科の分布

アマオブネガイの仲間は興味深いすみ方をしています。大部分は海岸の潮間帯に生息しますが、陸水の湧き出る前浜や干潟の汽水域から淡水域に進出して上流まで遡り、流れの中で生息する種もいます。さらに水中を離れて、飛沫のかかる湿った岩上の窪みを生息場所としている種もいて、種の進化の道筋上にいる種群を見るようです。また上流に生息する種の生活史は厳しく、転石や殻上に産卵された卵囊が孵化すると幼生になり海に流され、しばらく漂流したのち、上げ潮によって河口に入り幼生から着床生活にはいります。稚貝は転石づたいに流れに逆らって成長しながら上流に向かいます。

〔展示した貝〕

- ・岩礁転石砂地海岸の潮間帯にすむ種
 コシダカアマガイ、フトスジアマガイ、オオマルアマオブネ、アマオブネガイ、ニシキアマオブネ、ヌリツヤアマガイ、ニセヒロクチカノコ、キンランカノコ
- ・陸地に接する岩礁の潮間帯上部にすむ種
 イシダミアマオブネ、アラスジアマオブネ、キバアマガイ、リュウキュウアマガイ
- ・前浜や干潟の陸水の湧き出る転石上潮間帯にすむ種
 マルアマオブネ、カノコガイ、レモンカノコ、ハナガスミカノコ、ウコンアマガイ、ヒメカノコ
- ・河口干潟やマングローブ林にすむ種
 シマカノコ、ヒロクチカノコ、コウモリカノコ、ツバサカノコ、キジビキカノコ、ウスベニツバサカノコ、マングローブアマガイ、ヒラマキアマオブネ

・河口から中流域に分布する種

ドングリカノコ、イシマキガイ、イガカノコ、コツブコハクカノコ

・中流から上流域に分布する種

スジシマイガカノコ、ウロコイシマキ、コハクカノコ、カバグチカノコ、
クリグチカノコ、カザリクリグチカノコ、アラハダカノコ、ムラクモカノコ、
アカグチカノコ

・上流域にすむ種

クロズミアカグチカノコ、オカイシマキ

3. オカミミガイ科の貝

オカミミガイ類は海岸や河口、干潟、マングローブ林縁の潮間帯上部から飛沫帯に生息し、陸上生活に適した身体をもつ有肺類です。海岸に堆積する打上げ物や、転石の下、岩の割れ目や窪みなどのごく限られた場所に生息し、夜間におもに活動します。人の生活圏に隣接する海岸部に生息するため、埋め立てや護岸工事などで一番に影響を受けるグループです。潮汐流によってつくられる打ち上げ帯にすみ、潮汐流が運んでくる有機物を餌にしている種は、潮流の変化で生息場所が失われ、絶滅の危機にある種群と言えます。



ウラシマミミガイ

〔展示した貝〕

ハマシイノミガイ、カシノメガイ、ヒズメガイ、コハクオカミミガイ、クリイロコミミガイなど

4. 美ら島の陸産貝と淡水の貝

沖縄本島にはハブが、石垣島と西表島にはサキシマハブが生息しています。どちらも咬まれると命に関わる毒蛇です。陸産の貝類は森林の倒木の下や石垣などの湿った場所に多く生息していて、ハブなどの生息域と重なるのです。特に活動期の夏期は、採集など禁止されています。また河川も蛙などを食べに蛇が集まり、危険だと在住の貝仲間から注意されていました。雨が降ればカタツムリの仲間は活動を開始して、隠れ家から這い出てきます。意を決し、最大の注意をして得た標本も含まれています。実際に沖縄本島の海岸で同行者がハブにあっていましたし、石垣島では採集に入っていた小川の側道で車に轢かれたサキシマハブの死体に遭遇しています。

〔展示した貝〕

アフリカマイマイ、シュリマイマイ、スグカワニナ、オキナワウスカワマイマイ、ヌノメカワニナ、
トウガタカワニナ、ミヤコヤマタニシ、オキナワヤマタニシ、オキナワヤマタカマイマイ、イボア
ヤカワニナ、アオミオカタニシ、キカイキセルガイモドキ、台湾モノアラガイ、リュウキュウ
オカモノアラガイ、タラマノミギセル、オオベソマイマイ、台湾シジミなど

5. 分布の広い貝（大阪湾との共通種）

貝類は種によって生息場所が決まっています。潮の流れによって浮遊幼生が運ばれ、分布します。幼生期間の長さによって分布する範囲が決まります。浮遊幼生期をもたず、卵から稚貝が直接孵化する（直達発生）種では、生息場所が限られます。

大阪湾にも生息する共通の貝を展示しました。

〔展示した貝〕

スガイ、アマオブネ、イシマキガイ、ヘナタリ、カワアイ、コゲツノブエ、ナツメモドキ、コモンダカラ、ハツユキダカラ、カモンダカラ、クチグロキヌタ、イソニナ、カリガネエガイ、ヒバリガイモドキ、クジャクガイ、アコヤガイ、ハボウキガイ、ミノガイ、ユキガイ、ヒメアサリ、ハネマツカゼ、オキシジミ、クシケマスオ

6. 泡瀬干潟 豊かな自然と現状

泡瀬干潟は面積 290ha、琉球列島のなかで、一番大きな干潟です。その広大な面積と、複雑な地形・地質が形成する特異な環境をもち、海草藻類・貝類・カニ類・鳥類・サンゴ群集など多種多様な生物が生息する日本を代表するサンゴ礁干潟です。休みの日には、リュウキュウサルボウやアラスジケマンガイ、ホソスジヒバリなどの潮干狩りや釣り、タコ取りなどをして過ごす人がたくさんいます。この海は、人々にとっても、ほかの生きものにとっても大切な海なのです。

しかし、現在、泡瀬干潟では国（内閣府沖縄総合事務局）と沖縄県による埋立事業が進みつつあります。埋立地にはホテルや運動場、人工ビーチなどを作る計画です。このまま埋め立てが続けば、多くの生物の生息地が失われてしまいます。

（展示した貝 107 種、採集日：2008 年 5 月 9 日、採集者：児嶋 格、山田浩二、名和 純）



広大な泡瀬干潟にすむ生き物たち

【トピックス展示】

貝のかたち

今回は巻貝と二枚貝を展示しています。貝と言いましても貝殻は貝の軟体部を包んでいた炭酸カルシウムでできた殻の部分です。巻貝は右巻きに成長する貝が大部分ですが、左巻きの貝もあります。ホラガイやトウカムリガイの様な大きく成長する貝もありますが、コツブコハクカノコガイの様な小さな貝もあります。二枚貝は二枚の殻でできていて基本的には同心円状に成長し、左右対称形が多いのですが、不定形もあり、石などに着生する貝もあります。

変わった形の貝

美ら海には様々な形の貝がすんでいます。貝の形は生息環境や生息条件によって形づけられてきたと言われています。サンゴ礁や岩礁にすむ貝はゴツゴツしたものが多く、砂地にすむ貝はスラリとした形が多いです。二枚貝ではリュウキュウアオイガイやヒレインコガイが、巻貝では色々とありますが展示している唯一の左巻きのサカマキオカミミガイが挙げられます。

貝のフタの形と役目

貝のフタには、石灰質でできたものとキチン質でできたものがあります。もともとの役目は外敵から身を守るために殻口をふさぐものでしたが、フタが小さく退化したものや無いものもあります。イモガイ科やスイショウガイ（ソデボラ）科のフタは細長くギザギザになっていて、歩行のとき海底に突き刺して移動に使用します。ヤコウガイやホラガイ、イモガイ、スイジガイなどのフタを観察してください。

貝の名称

貝の名前には動物や植物の名がよく使われています。また色彩や模様などから名前のつけられた貝もあります。文学的な表現からつけられた美しい名の貝もあります。貝殻から受けた感動を先人達は様々な表現で命名されています。貝についているラベルからあなたも想像してみてください。

〔展示した貝〕

動物の名前のついたもの

サソリガイ、クモガイ、フシデサソリ、ラクダガイ、ウミウサギ、サメダカラ、チドリダカラ、リスガイ、マンボウガイ、ミノムシガイ、ウシノツノガイ、ネコノミミクチキレ

植物の名前のついたもの

ヤナギシボリダカラ、ナツメダカラ、クロユリダカラ、アヤメダカラ、オミナエシダカラ、ユウレイツクシ、スジイモ、サザンカイモ、レモンカノコ、タケノコガイ、リュウキュウナデシコ

その他

カミナリサザエ、オニノツノガイ、ウラスジマイノソデ、ヤサガタムカシタモト、ミツユビガイ、サザナミスイショウ、アカイガレイシ、キマダライガレイシ、ハチジョウダカラ、ヤクジマダカラ、サツマボラ、リュウキュウアサリ、ホシキヌタ、アマオブネ、コデマリナギサノシタタリ

食用にする貝

海岸に食べた後の貝殻がよく捨てられています。これは殻を海に戻すことによって再び豊かな海の幸を得るための願いからの習慣らしいです。冬期では11月、12月、1月が夜によく潮が引き、5月、6月、7月は昼によく引き、潮干狩りが行われます。波打ち際に食べた後の貝殻が捨てられています。

〔展示した貝〕

ヤコウガイ、ギンタカハマ、クモガイ、チョウセンサザエ、マガキガイ、スイショウガイ、ハボウキガイ、ホソスジヒバリガイ、リュウキュウアサリ、リュウキュウザルガイ、アラスジケマンガイ、ヤエヤマスダレ、シャコガイ、リュウキュウサルボウ、ウミギクなど

御守りや魔除けとして使われてきた貝

タカラガイの仲間は、妊婦さんが安産を願って御守りとして持つ風習があります。スイジガイは形が水の形に似ていますので門口に吊るして火災除けとして、またとげとげしい形から魔除けとしても使われています。



ホシダカラ



スイジガイ

貨幣として使われていた貝

タカラガイの仲間のキイロダカラとハナビラダカラは南方の浅海に多産する貝で、昔中国では貨幣として使われていました。お金や財産を表す漢字には貯、資、購、買、賃、貸など、貝の字の入った文字が使われています。またキイロダカラは、形や模様から貝の字の象形文字になったと言われています。学名も *Cypraea monetade* で、お金を表す名前が付いています。

装飾品としての貝

アコヤガイ：真珠

クロチョウガイ：黒真珠

マンボウガイ：カメオ

ヤコウガイ：螺鈿・装飾品

サラサバティ：貝ボタン

ゴホウラ：古代の腕輪・権力の象徴として使われた。

ホラガイ：吹き口をつけて古くは合戦や儀式の始まりの合図として使用された。



カメオ

こじま ただす
児嶋 格 氏 略歴

1941 年、大阪府泉佐野市に生まれる。自然遊学館客員講師。日本貝類学会会員。小学 4 年生の時の「夏休みの自由研究」で、佐野の浜で貝を収集したのがきっかけで、貝の世界に魅了される。それ以来、大阪湾の渚を見つめ続け、長年にわたり貝類相を調査している。2001 年からは沖縄の貝にも関心を抱いて頻繁に採集に向き、本展の開催につながった。



謝 辞

本展の開催にあたり、以下の方々にご協力を頂きました。記してお礼申し上げます。

名和 純（琉球大学風樹館） 大古場 正（潟の生態史研究会）、岡村 親一郎（日本貝類学会）、
久保 弘文（沖縄県水産試験場）、小菅 丈治（西海区水産試験場）、花野 晃一（成ヶ島を美しくする会）、
鈴子 佐幸（泉南高校）、白木 茂（樹研）、寺田 拓真（東京大学学生）、児嶋 和代（奥様）
（敬称略・順不同）